

# ルーマニア月報

2014年10月号



平成26年11月14日  
在ルーマニア大使館作成

Embassy of Japan in Romania  
<http://www.ro.emb-japan.go.jp>

本月報はルーマニアの報道をもとに、日本大使館がとりまとめたものです。

## 主要ニュース

- 【内政】●大統領選挙戦がスタート。バセスク大統領によるポンタ首相はかつて身分を隠した諜報部員であったとの発言にもかかわらず、ポンタ候補が選挙戦を優位に進めた。
- 【外政】●NATOのミサイル防衛システムの一環を担うことになっているルーマニア南部のデヴェセル基地の管理権が米軍に移管された。これに対しロシアは安全保障のための措置をとると反応。
- 【経済】●交通インフラ・マスタープランが運輸省ホームページ上で公表された。
  - 2020年までのルーマニア政府の中小企業発展戦略が決定された。
  - 9月の対前年同月比の消費者物価上昇率が1.54%となった。
  - 9月末の財政状況は、対GDP比で0.06%の黒字を記録した（8月末には対GDP比0.24%の財政赤字）。
- 【我が国との関係】●ルーマニアを訪問した愛媛県産学界代表団が、ボック・クルージュ市長を表敬し、松山市と同市の友好都市協定締結の可能性につき協議を行い、さらなる交流促進が合意された。

## 内政

### ■大統領選挙に向けた動き

#### 【ポンタ候補陣営】

・3日、マヨール・ルーマニア情報庁長官は、新たな大統領が選出された際には、新大統領に辞表を提出し自らの進退を伺うことが当然である旨発言した（注：同長官は、タリチャーヌ上院議長（PLR（改革自由党））とともに、ポンタ首相（PSD党首）が大統領となった場合の首相候補の一人として挙げられている）。

#### 【ヨハニス候補陣営】

・22日、ヨハニスPNL党首（シビウ市長）は、政党間の移籍を認める緊急政令に基づき他党に移籍した約350名の地方自治体首相の復党は認めない旨述べた。  
・27日、ルーマニア破棄院は、クラウス・シビウ市長の兼業禁止違反に関する審理を11月18日に開始

することを決定した。本件についてはANI（国家廉潔庁）が速やかな審理の開始を破棄院に要請していた。

#### 【その他】

・13日、バセスク大統領は、「ポンタ首相は、1997～2001年の間、対外情報庁（SIE）の身分を隠した諜報部員であったことを認めるべきである」と述べた上で、そのことを証明する書類として複数の関連書類写しを提示した。

これに対し、ポンタ首相は、14日、「自分はこれまで法に違反した行為は行っていない」旨反応。ヨハニス候補、ウドレア候補は、ポンタ首相は嘘つきであり、首相職を辞すべきである旨攻撃する一方、メレシュカーヌ候補（前SIE長官）は、バセスク大統領は、機密書類のコピーを所持するという法律違反を犯している旨指摘。また、SIEは、バセスク大統領の発言内容を否定した。

- ・23日、バセスク大統領は、大統領の任期終了後にPMPに入党する意向を表明した。他方で、同大統領は、28日、同党の党首になるつもりはない旨述べた。
- ・28日、バセスク大統領は、自身が支持するウドレア候補が本当に当選できると思うほどナイーブではない旨発言した。

### 【世論調査結果】

- ・10月に公表された世論調査結果は次のとおり。  
INSCOP（調査期間：10月2～8日）

#### （第一回投票）

ポインタ候補（PSD, UNPR, PC）	40.6%
ヨハニス候補（ACL）	30.1%
ウドレア候補（PMP）	6.7%
タリチャーヌ候補（無所属）	6.2%
メレシュカーヌ候補（無所属）	4.6%
マコヴェイ候補（無所属）	4.6%
ケレメン候補（UDMR）	2.5%
ディアコネスク候補（PPDD）	2.0%
トゥドール候補（PRM）	1.7%
その他の候補	1.0%

#### （決選投票）

ポインタ候補／ヨハニス候補 53.5%／46.5%

### ① CSCI（調査期間不明）

#### （第一回投票）

ポインタ候補	41%
ヨハニス候補	27%
タリチャーヌ候補	8%
ウドレア候補	5%
ディアコネスク候補	5%
ケレメン候補	3%
マコヴェイ候補	3%
トゥドール候補	3%
メレシュカーヌ候補	2%
その他の候補	3%

#### （決選投票）

ポインタ候補／ヨハニス候補 56%／44%

### ② CSCI（調査期間10月27～29日）

#### （第一回投票）

ポインタ候補	40%
ヨハニス候補	29%

タリチャーヌ候補	8%
ウドレア候補	6%
マコヴェイ候補	5%
メレシュカーヌ候補	3%
ディアコネスク候補	3%
ケレメン候補	3%
トゥドール候補	2%
その他の候補	1%

#### （決選投票）

ポインタ候補／ヨハニス候補 55%／45%

【政党等略称】 PSD：社民党，UNPR：ルーマニアの進歩のための国民同盟，PC：保守党，ACL：キリスト教自由同盟（PNL：国民自由党及びPDL：民主自由党で構成），PMP：国民の運動党，UDMR：ハンガリー人民民主同盟，PPDD：ダン・ディアコネスク人民党，PRM：大ルーマニア党

### ■その他

- ・3日、バセスク大統領は、いわゆる「マイクロソフト事件」に関して法務省から送付された元閣僚5名に対する刑事訴追手続き開始の要請を認める旨述べた。
- ・6日、ブカレスト地裁は、PNLとPDLの合併要請を承認した（注：当国での政党登録は裁判所に行う必要がある）。
- ・10日、ポインタ首相は、ケレメン副首相兼文化相が前9日に辞任したことに伴い、文化相代行に就任した。
- ・21日、汚職に関する刑事訴追手続きの開始を求められていたフレベンチューク下院議員（PSD）が議員辞職した。
- ・29日、ブカレスト地裁は、PDLとFC（市民勢力党）との合併要請を承認した。

### 外政

#### ■主な要人往来

- ・2日、ポインタ首相は、レアンカ・モルドバ首相とともに、ウクライナを訪問し、ポロシェンコ・ウクライナ大統領、ヤツェニウク・ウクライナ首相と会談した。
- ・6日、ザオラーレク・チェコ外相がルーマニアを訪

問し、コルラツェアン外相と会談した。

・10日、ポンタ首相はモルドバを訪問し、レアンカ・モルドバ首相と会談した。

・16日、バセスク大統領は、ミラノで開催されたASEM首脳会合に参加した。

・20日、コルラツェアン外相は、ブリュッセルで開催されたEU外務理事会に出席した。

・21日、コルラツェアン外相は、ブリュッセルにおいてストルテンベルグNATO事務総長と会談した。

・23-24日、バセスク大統領は、ブリュッセルで開催された欧州理事会に出席した。

## ■米国関係

・2日、ワシントンで開催された「米国・中欧戦略フォーラム」において、ヌーランド米国務次官補（欧州・ユーラシア担当）が「中欧には、民主主義の後退と汚職という二つの癌が存在する」と述べた中で、批判の対象にルーマニアが含まれているととられ得る発言をしたことに関し、ポンタ首相は同発言は隣国のハンガリーを批判したものだと反論したのに対し、バセスク大統領は、同次官補の批判の対象には明らかにルーマニアが含まれている旨発言した。

本年8月にルーマニア政府が市長等の政党移籍を可能にする緊急政令を採択した際、在ルーマニア米国大使館は、このような問題は緊急政令ではなく議会における審議というプロセスを経るべきであるとするプレスリリースを发出していた。

### 【参考】ヌーランド国務次官補発言要旨

中・東欧諸国は外的のみならず内的な脅威にさらされている。今日の中欧において民主主義と自由に向けられた内的な脅威を懸念している。この地域に存在する二つの癌は民主主義の後退と汚職である。

中・東欧地域の指導者達 (leaders) の中には、NATO及びEU加盟国としての便益を享受しながら、それらの機構が依って立つ価値を忘れてしまっている人たちがいる。そうした指導者達、さらに、開催中にもかかわらず議会を迂回したり、国の輸入エネルギーへの依存を高めるような汚れた取引をするような歪んだ

ルーマニア月報

役人を刑事訴追から擁護している人たちに聞きたい。どうして「自由でない民主主義」を推し進めながら、民族主義を煽りながら、報道の自由を制限しながら、市民社会を敵視しながら、NATO第5条の傘の下で安穏と眠ることができるのだろうか。

## ■ロシア関係

・10日、ルーマニア南部のデヴェセル基地（注：欧州におけるNATOのミサイル防衛システムの一部として、2015年末までに陸上配備型の弾道ミサイル防衛システムが稼働する予定となっている）の管理権が米軍に移管されたことに対し、グルシュコ・ロシアNATO常駐代表は、13日、Interfax 通信に対し、デヴェセル基地の管理権が米国へ移管されたことへの反応として、ロシアは自国の安全保障を確保するための措置を講じなければならない旨発言した。

これに対し、ポンタ首相は、10月14日、概要次のとおり発言した。

ルーマニアはNATO及びEU加盟国であり、米国の忠実な同盟国である。ルーマニアは平和を希求しており、地域においてバランスの取れた役割を果たすことを望んでいる。

ルーマニアの目標は、エネルギー安全保障の達成であり、黒海地域の安全保障強化であり、モルドバ、ウクライナ、グルジア、セルビア及び他のバルカン諸国の欧州統合を支援することである。この文脈においてルーマニアが脅迫を受け入れることはない。

ルーマニアは欧州及び環大西洋の価値を共有するシステムの一員であり、クリミアで起こったことに目をつむっていることはできない。

## ■モルドバ関係

・31日、ポンタ首相は、大統領に就任した際の最初の訪問国はモルドバになるだろう旨述べた。

## ■経済

### ■マクロ経済

・2日、国家統計局(INS)によれば、2014年8月の工業製品物価指数は、対前月比で0.2%下落し、

対前年同月比で0.5%上昇。(INS)

・2日, 2014年8月の小売り販売高(自動車, パイクを除く)は, 前月比で, 季節調整なしでは0.1%増加し, 季節・労働調整後では0.6%下落。また, 前年同月比で, 季節調整なしでは3.7%, 季節・労働日調整後では5.6%, それぞれ増加。(INS)

・8日, INSは, 2014年第2四半期の前期比GDP成長率を-1.0%から-0.9%に, また, 第1四半期の前期比GDP成長率を-0.2%から-0.1%に, それぞれ上方修正した。第2四半期の対前年同期比GDP成長率は, 1.2%(季節調整前)及び1.5%(季節調整後)で, それぞれ据置。また, 2014年上半期の前年同期比GDP成長率も2.4%(季節調整前)及び2.6%(季節調整語)で, それぞれ据置。(INS)

・7日, 2014年8月の新規工場受注高(名目)は, 前期比で13.1%, 対前年同月比では2.2%, それぞれ減少した。1~8月の新規工業受注高(名目)は対前年同期比で6.1%増加。(INS)

・7日, 2014年8月の工業売上高(名目)は, 対前月比で12.3%減少し, 対前年同期比では2.3%増加。1~8月の工業売上高(名目)は対前年同期比で8.9%増加。(INS)

・8日, INSは, 2012年の実質GDP成長率の確定値を, 対前年比で0.6%と発表。(INS)

・10日, 2014年1~8月には, 対前年同期比で輸出が, レイ建てで8.0%(ユーロ建てで6.7%), 輸入はレイ建てで7.3%(ユーロ建てで6.1%), それぞれ増加した。また, 同期の貿易赤字は168億7,250万レイ(37億9,640万ユーロ)となり, 前年同期比で3億1,420万レイ(3,670万ユーロ)増加。(INS)

・10日, 2014年9月の対前年同月比の消費者物価上昇率は1.54%で, 8月の0.84%から上昇。また, 9月の前月比の消費者物価上昇率は0.12%で, 8月の-0.31%から上昇。(INS)

・10日, 2014年8月の工業生産高は, 対前月比では, 調整なしで20.2%, 季節・労働日数調整済みでは2.7%, それぞれ減少。また, 対前年同月比

で調整なしでは0.0%(変化なし), 季節・労働日数調整済みでは4.7%増加。なお, 2014年1~8月の工業生産高は対前年同期比で調整なしでは7.6%, 季節・労働日数調整済みでは9.0%, それぞれ増加。(INS)

・16日, ユーロスタットは, 2014年9月のインフレ年率に関し, ユーロ圏で0.3%(8月の0.4%から低下), EU内で0.4%(8月の0.5%から低下)と発表。国別でみると, EU内で最も高いインフレ年率を記録したのは, ルーマニア(1.8%), フィンランド(1.5%)及びオーストリア(1.4%)で, 逆に低い記録となったのはブルガリア(-1.4%), ギリシャ(-1.1%), ハンガリー(-0.5%)。(ユーロスタット)

#### ■ IMF, 国際機関関係

・テオドロヴィッチ欧州基金相は, 9月末時点での欧州基金の吸収率が38.46%となり, 10月には40%を超えるだろうと発言。(5日付アジェルプレス通信)

・7日, IMFは世界経済見通しにおいて, 2014年のルーマニアの経済成長率を2.4%と発表。4月の2.2%から上方修正。(アジェルプレス通信)

・15日, 欧州委員会(EC)は, ルーマニアにおけるグリーン証券削減スキームを, EUの政府補助に関する規定に合致するものと判断した。同スキームは, 大量の電力を消費し, かつ, 国際的な市場で競争する必要がある電力消費者を対象に, グリーン証券の支払いを減額することを目的として定められたもので, 2014年1月から施行され, 実施期間は2024年12月31日まで。(アジェルプレス通信)

・16日, 欧州基金省は, 2014年から2020年にかけての主要インフラ整備計画に関する実行プログラムをECに提出した。同プログラムの資金割当ては約94億1,000万ユーロ。(アジェルプレス通信)

#### ■ 産業界の動向

・ストラタム・エネルギー社(米)は, ルーマニア北東部バカウ県において石油及びガスの生産を開始した。

(3日付ナイン・オクロック紙)

・7日, J T Iは, 北アイルランド及びベルギーの生産工場を閉鎖し, 生産をルーマニアとポーランドに移す可能性につき発表。(ズィアル・フィナンチアル紙)

・13日, 運転免許・自動車登録所は, 2014年9月の新規自動車登録台数は8, 146台で, 2013年9月の5, 561台と比べて25. 59%増加したと発表。(アジェルプレス通信)

・自動車生産輸入業者協会(A P I A)は, 2014年1~8月の乗用自動車(新車)販売台数が4万8, 326台となり, 対前年同期比で27%増加したと発表。(17日付ズィアル・フィナンチアル紙)

### ■投資関連動向

・9月30日, 国家エネルギー規制局 (ANRE)長は, 10月1日から, 産業用ガス価格が平均3. 5%引下げられると発言。ただし, 産業用ガス価格の引下げが適用されるのはG D F S u e zから供給をうける約9万の企業に対してであり, E. O Nのガス価格には変化はない。(1日付ナイン・オクロック紙)

・トランスエレクトリカ社は, 8月末の再生可能エネルギー発電容量を4, 704MWと発表。(3日付アジェルプレス通信)

・15日, ニコレスク・エネルギー担当相は, ガスプロム(露)からルーマニアへの天然ガス輸出量が, 定められた量よりも少なくなっている旨発表した。14日には, ルーマニア国営天然ガス輸送会社であるトランスガスに供給された天然ガス量は規定量よりも26. 7%少なかったが, ロシアからの天然ガス供給量が規定量よりも少なくなる状況は, 9月以降何度も発生している。(ズィアル・フィナンチアル紙)

・17日, 国際信用格付会社S & Pは, ルーマニア国債(外貨建て長期・短期)の格付を“B B B -”, また, ルーマニア国債(レイ貨建て)の格付を“A - 3”, 格付見通しを“安定的”で, それぞれ維持すると発表。また, ルーマニアの2014年のG D P成長率は2. 2%と減速するものの, 2017年までの平均成長率は2. 7%となり, さらに, 財政赤字を対G D P比2. 2%で抑えるという目標を達成し, 今後3年間の公的債務

の対G D P比は40%以下になるとの見方を発表した(ズィアル・フィナンチアル紙)

・ボトシャニ, コンスタンツァ, オルト, アルバ及びサトゥマーレの各県の農地所有者は, それぞれ25~50ヘクタール(h a)の農地(合計で190h a)を, 総額85万ユーロで販売することを希望している。提示価格の平均は1h a当たり4, 400ユーロで, 4か月前と比べて9%上昇している。(21日付ズィアル・フィナンチアル紙)

・27日, O M Vペトロム社とエクソン・モービル社は, 黒海のネプチューン・ブロック内のオーシャン・エンデバー(油田掘削プラットフォーム)にて調査掘削を開始したと発表。(27日付アジェルプレス通信)

・トランスエレクトリカ社は, 9月末の再生可能エネルギー発電容量を4, 725MWと発表。(30日付アジェルプレス通信)

### ■公共政策

・1日, ルス運輸相は, 交通インフラ・マスタープランを運輸省ホームページ上で公表し, 10月1日から30日にかけて, パブリックコメントを求めると発言。(アジェルプレス通信)

・運輸省は, 所轄の国営企業であるタロム航空, C F R Calatori(旅客部門), C F R S A(インフラ管理部門), ブカレスト空港管理会社, メトロレックス(地下鉄公社)の経営者を, 10月30日まで募集すると発表(6日付ズィアル・フィナンチアル紙)

・7日, ジアヌ中小企業・ビジネス環境・観光担当相は, 政府が2020年までの中小企業発展戦略を決定したと発表。また, 同相は, 1億5, 000万ユーロの会社設立支援を検討していると発言。(アジェルプレス通信)

・ルーマニア国家食品安全・衛生畜産公社(A N S V S A)は, 青舌病(Bluetongue disease)の拡大を防ぐため, ルーマニアから生きた牛及び羊をEU内の他国への販売することを禁止した。(13日付ナイン・オクロック紙)

・17日, ルーマニア国営企業ヌクレアルエレクトリカ社と中国広核集団は, チェルナヴォーダ原子力発電

所原子炉第3号及び第4号基建設の投資家選定手順のひとつである、同計画に関する共同同意書に署名した。これにより、同計画の投資家として、中国広核集団が指定されたこととなった。(ナイン・オクロック紙)

・31日、ロヴィナリ石炭火力発電所建設計画実施に向けて、CEオルテニア社及び中国企業Huadian エンジニアリング社が、共同企業(IPP)を設立する同意書に署名した。(ズィアル・フィナンチアル紙)

## ■財政政策

・21日、ユーロスタットは、EU28か国における2013年の財政赤字GDP比は、2012年の4.2%から3.2%に減少し、2013年公的債務GDP比は前年の83.5%から85.4%に増加したと発表。ルーマニアの2013年の財政赤字の対GDP比は2.2%で、前年の3%から減少。また、ルーマニアの公的債務の対GDP比は37.9%となり、EU内でエストニア(10.1%)、ブルガリア(18.3%)、ルクセンブルク(23.6%)に次ぐ低い割合であった。(アジェルプレス通信)

・23日、ユーロスタットは、EU28か国における2014年第2四半期の公的債務の対GDP比が、前期の86.0%から、87.0%に増加したと発表。また、ルーマニアの2014年第2四半期の公的債務の対GDP比は38.5%と発表(アジェルプレス通信)

・公共財務省は9月末の財政状況について、対GDP比で0.06%の黒字を記録したと発表。8月末には対GDP比0.24%の財政赤字であった。財政赤字が黒字に転じたのは、主に公共投資が実施されなかったことが原因。今年1月～9月は、対前年同期比で政府収入は5.5%増加し、政府支出は0.3%減少。(27日付ズィアル・フィナンチアル紙)

## ■金融等

・1日、ルーマニア中央銀行(BNR)は、2014年9月末の外貨準備高を、310億6,100万ユーロ(8月末の308億7,500万ユーロから増加)、金準備高は103.7トンで不変と発表。(BNR)

・BNR新理事会は、今後の長期の金融政策の主要目標は、ユーロ圏に参加すること及び欧州銀行同盟に参加することと発表。(13日付アジェルプレス通信)

・14日、2014年1月～8月の経常収支等について次のとおり発表。(BNR)

(1)経常収支は9億4,500万ユーロの赤字。なお前年同期には4億8,900万ユーロの赤字。

(2)外国直接投資(FDI)は、14億2,400万ユーロで、前年同期比で27.3%増加。

(3)中長期対外債務は、2013年末から1.8%減少して、774億3,800万ユーロとなった(対外債務全体の80%)。

(4)短期対外債務は、2013年末から0.5%増加し、193億1,300万ユーロとなった(対外債務全体の20%)。

・ルーマニア政府は、国際市場において、総額15億ユーロの10年物ユーロ建て国債を利回り2.973%で発行した。4月に発行した同様の国債の利回りは3.701%であり、3%以下で発行したのは今回が初めて。(22日付アジェルプレス通信)

・26日、欧州中央銀行が公表した欧州の銀行に対する包括的評価において、資本不足と認定された25行の銀行のうち、7行(Eurobank(Bancpost), National Bank of Greece(Banca Romanesca), Piraeus Bank, Volksbank, Vento Banca, Bank of Cyprus 及び Millennium BCP)がルーマニアで営業している。(ズィアル・フィナンチアル紙)

## ■労働・年金問題等

・7日、2014年8月の平均給与(名目)は2,331レイ(約526.8ユーロ)で、対前月比で2.0%減少。また、平均月給(手取り)は1,683レイ(約380.3ユーロ)で、対前月比で36レイ(2.1%)減少。なお、平均給与(手取り)が最も高かった業種は石油・天然ガス採掘業(4,484レイ、約1013.4ユーロ)で、反対に最も低かったのは宿泊・飲食業(996レイ、約225.1ユーロ)。(INS)

・29日、国家雇用庁(ANOFM)は、2014年9月末の失業率を5.11%と発表。失業者数は46万

1,822人で、8月末から2,043人減少。(30日付ズィアル・フィナンチアル紙)

・31日、ILO基準による2014年9月末の失業率を6.9%と発表。8月末の7.1%から減少。(ズィアル・フィナンチアル紙)

・31日、プルンプ労働・家族・社会保障・高齢者相は、最低賃金(グロス)を2016年に1200レイ(約285ユーロ)まで引上げることが念頭に、2015年1月に現行の最低賃金(グロス)900レイから975レイに、また同年7月から1,050レイに上げると発言。(アジェルプレス通信)

### ■格付(2014年11月7日付)

F i t c h 外貨建長期(国債) BBB- (安定的)  
自国通貨建長期 BBB (安定的)

S & P 外貨建長期 BBB- (ポジティブ)  
自国通貨建長期 BBB- (ポジティブ)

J C R 外貨建長期 BBB- (安定的)  
自国通貨建長期 BBB (安定的)  
(内はアウトルック)

## 我が国との関係

### ■小説「眠れる美女」のルーマニア語版再版記念式の開催

・22日、フマニタス書店チシュミジウ店において、川端康成の小説「眠れる美女」のルーマニア語版再版記念式が開催され、翻訳を行ったフォクシェネアヌ・ブカレスト大学日本研究センター長からの本の解説の他、日本文化の紹介がなされた。

### ■愛媛県産学界代表団のルーマニア訪問

・28日-11月1日、愛媛県からの産学界の代表団がルーマニアを訪問した。一行はボック・クルージュ市長を表敬し、松山市と同市との間の友好都市協定の締結の可能性等につき協議を行い、同市への500本の桜の苗木の寄贈を約束したほか、国立愛媛大学附属高校がインターネットビデオ電話を利用した交流を行

っている国立イオン・クレアング高校を訪問し、交流促進に向けた両校間の交流協定に署名を行った。なお、愛媛大学は昨年ブカレスト大学及びバベシュ・ボヤイ大学(クルージュ市)との間で学術交流協定を締結し、すでに大学間で交換留学が実施されている。